

第35期営業のご報告

[平成13年4月1日～平成14年3月31日]

FUTURISTIC
PULSE

Systemex



シスメックス株式会社

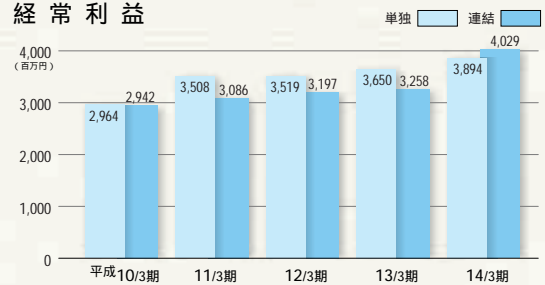
証券コード 6869

業績の推移

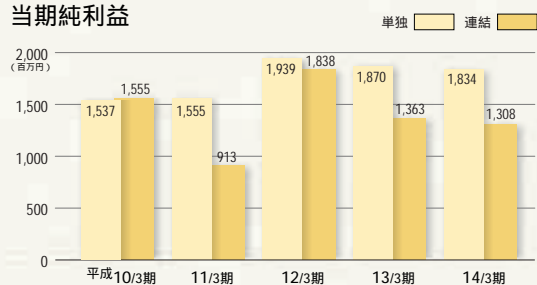
売上高



経常利益



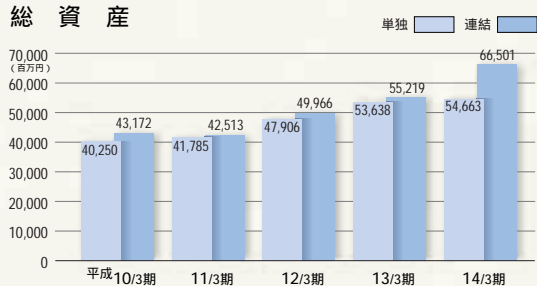
当期純利益



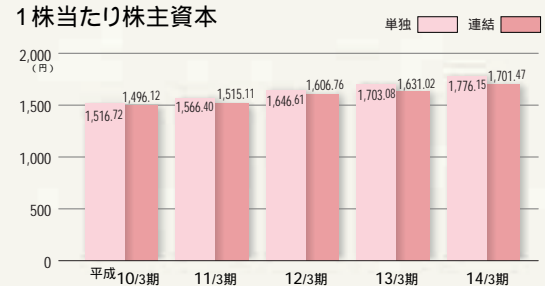
株主資本



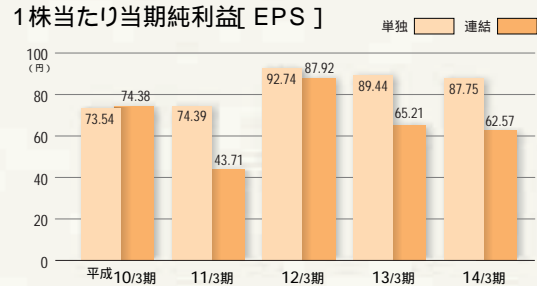
総資産



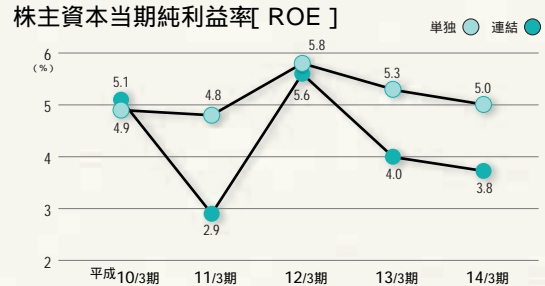
1株当たり株主資本



1株当たり当期純利益 [EPS]



株主資本当期純利益率 [ROE]



TOP INTERVIEW

新シスメックスグループのパワーをフルに発揮し、アジアNo.1の総合サプライヤーを目指す。

日頃は、株主の皆さま方からのご支援、ご指導をいただき、心から感謝しております。今期は国際試薬株式会社を子会社化し、シスメックスグループの新体制が確立されました。今後はグループの総合力を活かし、トータルソリューションの提供を通じて、さらに豊かな健康社会づくりに貢献する所存であります。ここに第35期連結の業績をご報告するとともに、今後目指す事業戦略について説明させていただきます。



第35期業績と事業展開のご報告

まず、今期の業績はいかがでしたか。

今期シスメックスグループは、アライアンスによる品揃えの強化を図るとともに、資本参加を行っていた国際試薬の子会社化を実施し、検査機器・試薬、IT、サービス&サポートを併せ持つ総合サプライヤーとしての強みを拡充し、お客さまへの総合的な提案を推進しました。その結果、国内、海外ともに売上が増加し、円安効果もあり連結売上高は47,532百万円(前期比22.5%増)となりました。利益面では、事業基盤の整備・拡大のため投資を進める一方、原価低減、販管費の抑制に努め、さらに円安の寄与もあり経常利益は4,029百万円(前期比23.7%増)と過去最高を達成しました。一方、当期純利益は、株式市況低迷による保有株式の評価損の計上、国際試薬との事業再編に伴い同社の棚卸資産について評価損を計上したことなどにより、1,308百

万円(前期比4.1%減)となっています。なお、今期の連結決算には国際試薬の下期分の売上および利益が反映されています。

日本国内での業績はいかがでしたか。

国際試薬の子会社化に伴う取扱商品の増加に加え、業務提携先であるロシュ社の尿自動分析装置など品揃えの充実を進めました。また、業界全体に医療費抑制の流れはありましたが、検査情報システムやサービスを含むトータルな提案がお客さまに受け入れられ、売上高は24,624百万円(前年比27.6%増)と大幅な増収となりました。

海外における地域別の業績についてお聞かせください。

まず、米州市場ですが、血液分析装置、血液凝固測定装置の売上が期待したほどには大きく伸びませんでした。しかし、尿検査装置の売上が増加し、

為替換算レートの円安効果もあり、売上高は5,698百万円(前年比7.6%増)となりました。欧州市場においては、当社の主力製品である多項目自動血球分析装置 XE-2100 を中心に順調な伸びを見せ、試薬、臨床検査情報システム関連の売上が好調に推移したことなどにより、売上高は12,097百万円(前年比16.0%増)の増収となりました。一方、アジア・パシフィック市場では、特に中国において販売サービスの拠点拡充により、血液分析装置、血液凝固測定装置の売上が増加した結果、売上高は5,111百万円(前年比34.9%増)と大幅に増加しました。今後もこの地域での大きな成長が期待されています。

国際試薬を子会社化し、
新シスメックスグループが誕生。

今期、国際試薬を子会社化しシスメックスグループに統合されましたが、その背景と狙いについてお聞かせください。

現在、私たちの業界は医療費の抑制や診療報

酬の改定などにより厳しい局面を迎えています。一方、医療のIT化や標準化のニーズが急速に高まり、当社を取り巻く環境は著しく変化しつつあります。このような状況の中で今回の子会社化は、互いの強みを融合し、そのシナジー効果を最大限に発揮することで、グループとしての企業価値を高めることを狙いとしています。具体的に言いますと、機器やITに強いシスメックスと、試薬に強い国際試薬が一体化することで、品揃えがさらに充実するとともに、国内・海外における販売およびサービス&サポートもより強固なものとなります。まさに検体検査分野での日本No.1企業として、より高度で高付加価値なトータルソリューションをご提供できると確信しています。また、海外に強いシスメックスのネットワークを活用し、国際試薬の製品を販売することで、アジアNo.1の総合サプライヤーに向けてさらなる飛躍ができると期待しています。

研究開発や生産体制、人材の統合についてはどのようにお考えですか。

機器の開発はシスメックスのテクノセンター、試薬は国際試薬の研究開発センターで互いに連携を図りながら開発していきます。ライフサイエンスの研究に関してはシスメックス中央研究所で行います。互いの技術や人材を融合し、国内トップクラスの研究開発体制が整うと言えるでしょう。また、試薬の生産に関しても、両社の強みを活かした生産体制を構築していきます。両社の生産技術・ノウハウの一体化により、大幅な生産効率の向上、原価の低減が可能になります。一方、人材に関しては、国際試薬の社員をシスメックスへ転籍する事としました。



これにより社員全員の意識改革、モチベーションの向上が図れると考えています。

市場別のニーズを把握し、さらに積極的な海外ビジネスを展開。

今後の海外における事業展開についてお聞かせください。

地域別にお話ししますと、まず、欧州市場ですが、おかげさまで機器設置台数の増加とともに試薬の売上も順調に伸びています。今後はベルギーのソフトウェア開発の拠点シスメックス・モリス社のIT製品と機器の融合を進め、医療の情報化ニーズに対応したソリューションビジネスの拡大を図ります。米州市場では、ロシュ社やデイドパーリング社とのアライアンスを強化し、血球計数分野、血液凝固分野でのシェア拡大を目指します。さらに、シスメックスが独自に、IT事業の強化、急激に需要拡大するPOC(ポイントオブケア)ビジネスへの本格的参入、尿検査分野の拡大などに取り組んでいく方針です。

次にアジア・パシフィック市場ですが、経済成長が著しい中国市場に注目しています。人口はもちろん病院数も数多く、経済成長にあわせた急激な市場拡大が予測されます。当社ではここ数年、販売・サービス・試薬生産・IT開発の拠点を充実させ、広大な中国においてインフラ整備を積極的に展開してきました。これら地域密着型のビジネス戦略が大きな成果を上げるものと期待しています。また、インドネシアに現地法人を開設し、シスメックスの持つ優位性を活かし、アジアNo.1の総合サプライヤーを目指します。

患者のクオリティ・オブ・ライフの向上を目指し、ライフサイエンスの研究に取り組む。

現在、推進されている遺伝子検査技術の研究についてお聞かせください。

新たなコアテクノロジーの創出を目指す中央研究所では、ポストゲノムの研究基盤を強化し、検査の拡大を見据えた独自性の高い技術の確立を行い、新たな検査領域への取り組みを推進しています。そのひとつとして今回、がん細胞のリンパ節転移を検出する遺伝子検査技術の開発に成功しました。これは15分以内という短時間で、簡単に遺伝子の増幅、検出まで行えるという、世界最速の画期的な技術であり、現在病理医が行っている手術中におけるがんのリンパ節転移診断の自動化が可能となります。2003年後半には研究用途として機器・試薬の商品化を予定しています。今後もライフサイエンスに関する研究をより積極的に進め、患者への負担の軽減などQOL(クオリティ・オブ・ライフ)の向上に貢献したいと考えています。

今回、国際試薬の子会社化により、新しいシスメックスグループが誕生しました。この総合力を存分に発揮するとともに、より積極的な事業活動を展開し、株主や投資家の皆さま方のご期待にお応えできるよう努力を重ねてまいります。今後ともより一層のご支援をよろしくお願いいたします。

代表取締役社長 家次 恒

5月1日、新生シスメックスグループが スタートしました。

2000年12月に国際試薬との包括的な業務提携に合意してから1年半。昨年、8月のTOB(公開買付)により、50.8%株式取得を経て、2002年4月1日、株式交換によりシスメックスの100%子会社となりました。これを機に、新たなシスメックスグループがスタートし、さらに強力な事業体制が整いました。今回の特集は、この新体制による今後の事業展開についてご説明させていただきます。お互いの強みを活かし、Diagnostics分野でアジアNO.1の総合サプライヤーを目指す、シスメックスグループのさらなる飛躍にご期待ください。



販売・サービス & サポート体制 について

国内No.1の販売体制が確立。

今回、国際試薬の全支店・営業所を含め、国内の営業機能はすべてシスメックスに統合され、お客さまとの窓口が一本化されました。これにより、国内トップクラスの販売・サービス体制が整いました。また、機器に強いシスメックスと試薬に強い国際試薬が一体化したことで、お客さまにさらに充実したトータルソリューションを提供することが可能となります。

品揃えが充実し、トータルな提案が可能に。

国際試薬との一体化によって、新たに肝機能などを調べる生化学分野の試薬などが、シスメックスグループの製品ラインナップに加わります。また、免疫や凝固分野においても取扱製品幅が広がり、検体検査での主要分野のほぼすべてについて品揃えが充実しました。検査室へ機器や試薬を販売するだけでなく、ITや臨床検査情報システム、POC製品などを組み合わせることで、手術室や集中治療室なども含めた病院全体における検査の効率化に向けた提案を進めていきます。

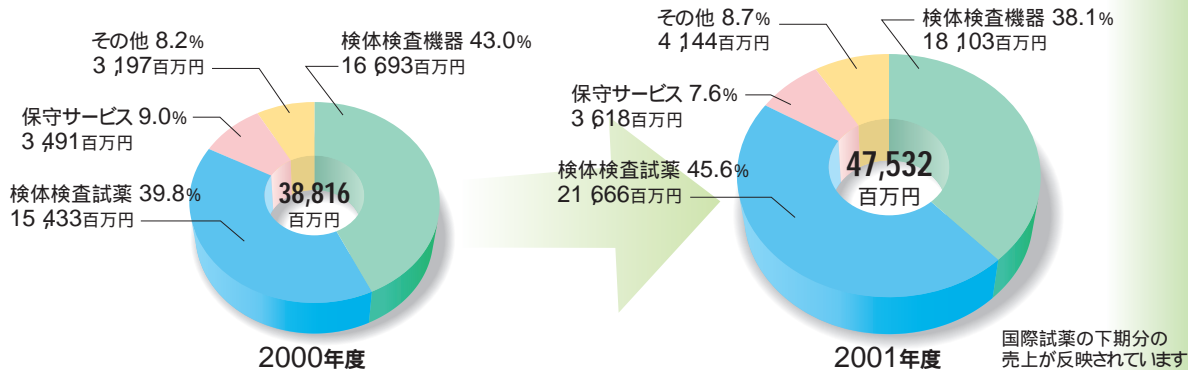
試薬の品揃えの充実にとともに、学術サポート機能を強化。

試薬の取扱い品目が拡大すると、それぞれの試薬の特性に応じた情報提供が必要になります。例えば、凝固や免疫試薬の場合は、原料にウサギなどの動物性タンパク質を使用しているため、製品ごとの特性に関する情報を適時お届けすることが重要です。また、生化学や凝固の試薬は汎用性が高く、どのメーカーの装置を使用しても測定が可能で、結果の数値にもそれぞれ特徴が出てきます。そこで、お客さまに当社の試薬を正確に使っていただくには、試薬の特徴やどのような測定結果が出るかなど、学術面での情報や説明を的確に行うことが重要です。今回の新体制では各支店に新しく「学術情報課」を設置し、専門知識の豊富なスタッフが継続して情報をお客さまにお届けします。

国際試薬の試薬製品を海外市場へ。

シスメックスの持つグローバルな販売ネットワークを活用し、国際試薬の製品をアメリカやヨーロッパ市場に随時導入していきます。特に中国では、当社の済南希森美康医用電子有限公司で国際試薬の生化学試薬を生産し、中国をはじめとしたアジア各国に販売していきます。

構成比の変化



研究開発体制 について

先進のテクノロジーを結集した、新しい研究開発体制。

研究開発部門では2001年より、国際試薬との共同プロジェクトを発足し、機器と試薬の開発を推進してきました。今回、両社の一体化にともない、お互いの持つノウハウの融合による新しい研究開発体制を確立。この新体制では、機器開発は従来通りシスメックスで行い、試薬開発を国際試薬に集約し、それぞれの特性に応じた開発体制を構築し、共同プロジェクトで新製品の開発を推進します。また、ライフサイエンスなどの研究機能をシスメックスの中央研究所に集約します。



シスメックス テクノセンター

R&D



国際試薬 研究開発センター



シスメックス 中央研究所



互いの独自技術を融合し、研究開発力をさらにパワーアップ。

今までのシスメックスの試薬開発スタッフに国際試薬のスタッフが加わり、体制が強化されました。また、機器の発想と試薬の発想を持つ両社がともに手を組むことで、新たな発想に基づく商品開発が可能となります。特に、国際試薬は試薬の開発に強みを持つ企業であり、シスメックスグループとしては試薬に関する技術ノウハウの充実がより一層図れます。

シスメックスと国際試薬が一体
シナジー効果を最大限発揮し、

試薬生産体制 について

互いの強みを活かした試薬生産体制を実現。

今回の一体化により、お互いの得意分野を活かした試薬生産体制がスタートします。シスメックスの小野工場では、主に血球計数試薬をはじめ、大・中容量の試薬を生産。国際試薬の西神工場では、生化学や免疫分野の試薬を中心に、動物のタンパク質などを原料に使用する小容量の生物材料試薬を生産します。これにより、シスメックスが行ってきた免疫試薬(ランリームシリーズ)の生産は、すべて国際試薬に移管されます。今後は、グローバルな視点も踏まえグループ全体として、最適な試薬の生産体制の確立に取り組みます。



シスメックス 小野工場



生産の効率化、原価の低減、技術のレベルアップを推進。

両社の強みを活かした試薬の生産体制を確立するとともに、設備を集約し、生産工程を見直すことによって作業の効率化を実現。シスメックスグループとしての原価の低減と製造技術のレベルアップに取り組みます。さらには、両工場の需要予測や在庫状況、生産計画などをリアルタイムで把握できる生産情報システムを構築し、お客さまのニーズに迅速にお応えできる試薬生産体制の確立を目指します。



国際試薬 西神工場

化したことにより、互いの強みを活かしたグループ全体として総合力の一層の強化を図ります。

2001

- 6 POC検査のネットワーク化を図る「POCTWebシステムソフトウェア」を発売
- 7 国際試薬株式のTOB(公開買付け)を開始
 デイドベーリング社との血液凝固関連製品に関する販売提携契約を更新
 国際試薬株式のTOB(公開買付け)を終了、連結子会社化が決定
 血液標本作製技術と白血球分類用試薬技術において、ベックマン・コールター社と特許ライセンス契約を締結
- 8 東ソー(株)とグリコヘモグロビン分析計のアジア地域での販売提携契約を締結
- 9 シスメックスと国際試薬のサービス機能を統合
 「中央研究所研究倫理委員会」を設置
 新製品「免疫凝集測定装置 PAMIA-40i」を発売
 ニュージーランドのIT企業、デルフィック社を子会社化
- 10 加古川工場の事務所棟が完成
 新製品「FDP測定用血液凝固試薬 ラテックステストBL-2P-FDP」を発売
- 11 国際試薬(株)の完全子会社化に関する覚書を締結

2002

- 12 **動物市場に向けた新製品「動物専用血球計数装置 KX-21NV」を発売** P10
- 1 新製品「全自動血液凝固測定装置 CA-550」を発売
- 3 国際試薬(株)と営業譲渡・譲受による国内販売の統合に関する覚書を締結
シスメックスホームページがリニューアル
本社およびテクノセンターが ISO14001 の認証を取得
血液検査システムの1000セット納入を達成
 新製品「URISYS 2400 尿自動分析装置」を発売
- 4 国際試薬(株)との営業譲渡契約締結および株式交換を実施
新製品「多項目自動血球分析装置 XT-2000i」、「**血液分析装置用アップグレードソフトウェア XE proシリーズ**」を発売 P10
 慶応義塾大学医学部と血液細胞の遠隔画像診断における共同研究を開始
 POCに関する専門のWebサイトを開設
- 5 **がん転移を15分以内で検出できる遺伝子検査技術を開発**

本社とテクノセンターが環境マネジメントの国際規格ISO14001の認証を取得。

グローバルな事業展開を行い、豊かな健康社会づくりに貢献する当社にとって、環境保全への社会的責任を果たしていくことは企業としての重要な課題です。この度、本社および研究開発拠点・テクノセンターがISO14001の認証を取得。これによりシスメックスグループ

全体で環境ISOを取得した事業所は合計7ヶ所となり、グループの中核となる国内拠点のほぼすべてが認証を取得したことになります。今後もグループ全体として積極的な姿勢で環境保全に取り組んでいきます。



世界最速、がんのリンパ節転移を15分以内に検出できる遺伝子検査技術の開発に成功。

がんに関する遺伝子検査の研究を推進する当社は、今回、リンパ節へのがん細胞の転移を15分以内に検出できる遺伝子検査技術の開発に成功しました。前処理から遺伝子の増幅、検出までを一体化し、世界最速の検査技術を実現。全世界に向けた機器・試薬の販売を計画しており、2003年度の後半には研究用途で商品化し、その後、臨床用途として、がんのリンパ節転移を手術中に確認できる迅速遺伝子検査システムを発売する計画です。これにより、スピーディで正確な治療方針の決定を支援し、患者の苦痛や負担軽減などクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献できるものと考えています。

当社ホームページがさらに充実し、リニューアルオープン。

3月1日、シスメックスのホームページがリニューアルオープンしました。「投資家の皆さまへ」のコーナーには、新しく「株式会社債情報」などが加わり内容がさらに充実。デザインも一新し、検索しやすく洗練されたレイアウトになりました。皆さま方からの数多くのアクセスをお待ちしています。



<http://www.systemex.co.jp>

血液検査システムの「1000セット」納入を達成。

血球計数から血液標本作製までの自動化を実現した血液検査システム「HSシリーズ」を世界で初めて発売したのが1990年。以来、お客さまからの高い評価を得た結果、この度、1000セット納入を達成しました。納入先は、アメリカ・デラウェア州にあり、地域最大のヘルスケアプロバイダーであるクリスティアナ病院で、3月12日に現地で「血液検査システム1000セット納入記念式典」が開催されました。システム製品が「検査の効率化」というテーマに対してハイレベルなソリューションを提供していることが、お客さまに広く評価いただけました。



動物市場に向けた血球計数装置を発売。

今や家族の一員として迎えられるようになったペットたち。これにともない、人間と同様に健康への気遣いも高まっています。特に、

症状を声に出せない動物には、迅速な検査と素早い治療が必要になります。動物の血液検査を行うことで、感染症や内臓疾患などに関する情報を得ることが可能になります。今回

の動物血専用血球計数装置 KX-

21NV は、わずか1分で血液8項目の測定が可能です。動物病院の数は大幅に増加していますが(現在約9000施設)、その約7割が獣医師1名で開業しており、コンパクトで簡単な操作の機器が求められるため、このPOC商品は最適といえます。獣医対象の学界に出展するなどのマーケティング活動を展開しており、反応は好評で多数の問い合わせをいただいています。



KX-21NV

血液検査をさらに進化させる「XEファミリー構想」に基づき、XT-2000i XE proシリーズ が誕生。

1999年発売のマルチメディアおよびネットワーク対応型血液分析装置 XE-2100 は、その先進的なコンセプトが好評を得て、全世界で1100台を超える納入実績を上げています。

今回発売された多項目自動血球分析装置 XT-2000i はこの XE-2100 の基本機能をコンパクトにまとめたものです。例えば、中央検査室に XE-2100 を置き、緊急検査室などに XT-2000i を導入することで、画像を含めた検査データを共有することができ、病院内の連携をさらに強化することが可能になります。また、XE proシリーズ は、XE-2100 の機能をさらに拡張するソフトウェアです。

XE-2100 を中心として、分析装置の品揃えとアプリケーションソフトを追加することにより、検査を取り巻く環境変化に対応していく「XEファミリー構想」のもと、分析装置やソフトウェアの拡充を図り、さまざまなお客さまのニーズにあった商品をタイムリーに提案していきます。



XT-2000i

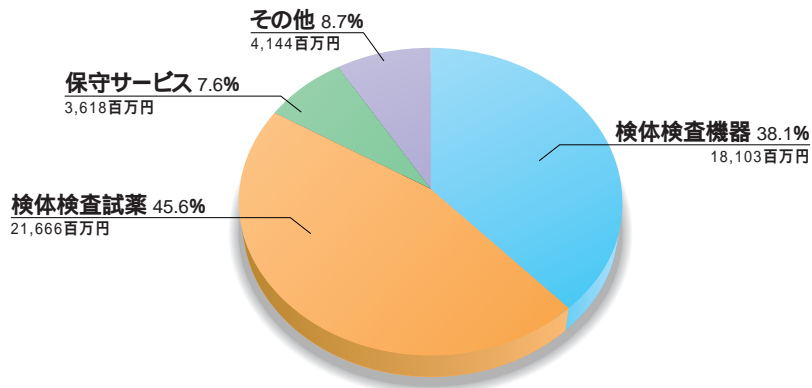
連結子会社および関連会社



会社名	所在地	主な事業
国際試薬株式会社	日本	検体検査試薬、検体検査機器の開発、製造及び販売
メディカ株式会社	日本	検体検査機器及び関連資材の製造、販売
トーアメディカル株式会社	日本	検体検査機器及び事務機器等のリース
シスメックス物流株式会社	日本	検体検査機器、検体検査試薬の保管、荷造梱包及び発送
株式会社アール・エー・システムズ*	日本	産業用計測・検査装置の開発、製造及び販売
株式会社日本食品エコロジー研究所*	日本	食品衛生検査
① SYSMEX CORPORATION OF AMERICA	米国	検体検査機器、検体検査試薬の販売及び代理店サポート
② SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC.	米国	検体検査試薬の製造及び販売
③ SYSMEX INFOSYSTEMS AMERICA, INC.	米国	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売
④ SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA.	ブラジル	検体検査試薬の製造及び販売
⑤ SYSMEX EUROPE GMBH	ドイツ	検体検査機器の販売及び代理店サポート / 検体検査試薬の製造及び販売
⑥ SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH	ドイツ	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑦ WELLTEC GMBH	ドイツ	一般個人向け食品健康情報の検査、提供
⑧ SYSMEX UK LIMITED	英国	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑨ SYSMEX BELGIUM S.A.	ベルギー	SYSMEX MOLIS S.A.の持株会社
⑩ SYSMEX MOLIS S.A.	ベルギー	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売
⑪ SYSMEX FRANCE S.A.R.L.	フランス	臨床検査情報システム用ソフトウェアの販売 / 検体検査機器、検体検査試薬の代理店サポート
⑫ SYSMEX MOLIS IT SERVICES SLOVAKIA, S.R.O.	スロバキア	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発・サポート
⑬ 済南希森美康医用電子有限公司	中国	検体検査試薬の製造及び販売
⑭ 希森美康香港有限公司	中国	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑮ 希森美康医用電子(上海)有限公司	中国	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑯ 希森美康電腦技術(上海)有限公司	中国	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売
⑰ SYSMEX SAN TUNG CO., LTD.	台湾	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑱ SYSMEX SINGAPORE PTE LTD.	シンガポール	検体検査機器、検体検査試薬の販売及び代理店サポート
⑲ SYSMEX (MALAYSIA) SDN BHD	マレーシア	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑳ SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD.	インド	検体検査機器、検体検査試薬の製造及び販売
㉑ SYSMEX (THAILAND) CO., LTD.	タイ	検体検査機器、検体検査試薬の販売
㉒ MED-ONE CO., LTD.*	タイ	検体検査機器、検体検査試薬の販売
㉓ SYSMEX DELPHIC LIMITED	ニュージーランド	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発、販売
㉔ WHOOSH TECHNOLOGY PTY LIMITED	オーストラリア	オーストラリア、ニュージーランドの企業向け法定福利事務支援をWebサイトにより提供

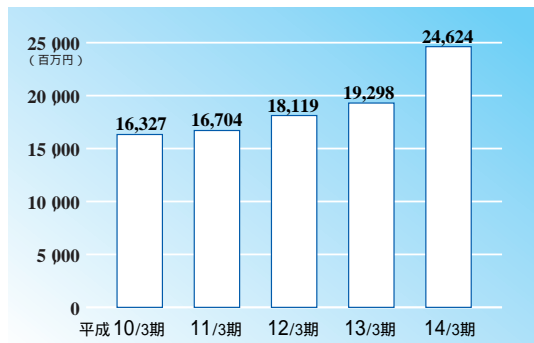
*持分法適用会社

品目別販売実績（連結）

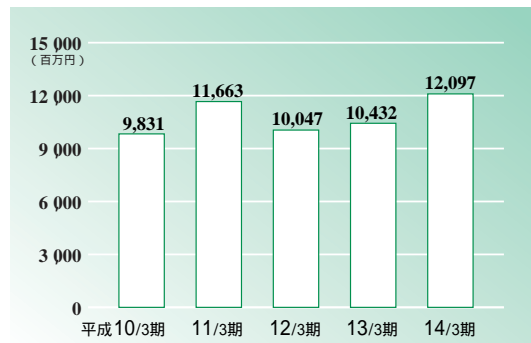


地域別売上高

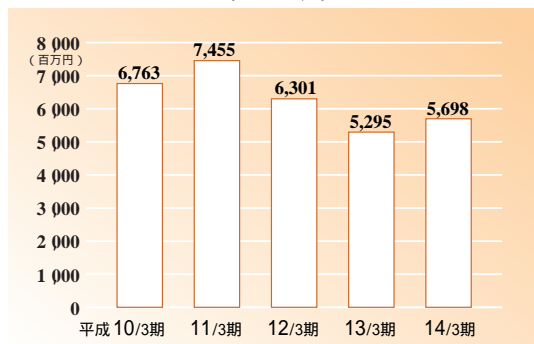
国内



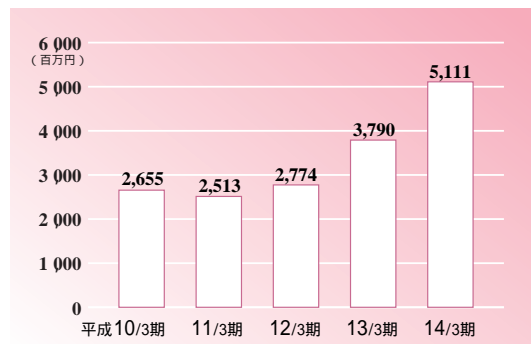
欧州



米州



アジア・パシフィック



損益計算書

科目	(単位:百万円)			
	当期		前期	
	平成13年4月1日から平成14年3月31日まで		平成12年4月1日から平成13年3月31日まで	
	連結	単独	連結	単独
売上高	47,532	31,679	38,816	31,554
売上原価	19,769	13,656	16,302	13,614
売上総利益	27,762	18,022	22,513	17,940
販売費及び一般管理費	24,345	15,475	19,538	15,095
営業利益	3,417	2,546	2,974	2,844
営業外収益	1,119	1,594	655	1,010
営業外費用	507	247	372	205
経常利益	4,029	3,894	3,258	3,650
特別利益	153	13		56
特別損失	1,108	588	307	318
税金等調整前当期純利益	3,074	3,318	2,950	3,387
法人税・住民税及び事業税	2,272	1,789	1,977	1,778
法人税等調整額	365	304	370	260
少数株主利益	140		20	
当期純利益	1,308	1,834	1,363	1,870
前期繰越利益		790		707
中間配当額		230		209
利益準備金積立額				20
当期末処分利益		2,395		2,347

経常利益(連結)

環境変化に対応するための投資を進める一方で、原価や販管費の低減に努めたことに加え、円安効果により為替差益5億43百万円を計上した結果、連結経常利益は40億29百万円(前期比23.7%増)となりました。

売上(連結)

国際試薬を連結対象に加え、総合サプライヤーとしての提案型の販売を推進した結果、国内、欧州及び中国の売上が増加し、連結売上高は475億32百万円(前期比22.5%増)となりました。

国内:24,624百万円(前期比27.6%増)
海外:22,907百万円(前期比17.4%増)

当期純利益(連結)

株式市況低迷による保有株式の評価損及び国際試薬の棚卸資産に対する評価損の計上等により、13億8百万円(前期比4.1%減)となりました。

貸借対照表(連結)

科目	(単位:百万円)	
	当期 平成14年3月31日現在	前期 平成13年3月31日現在
資産の部		
流動資産	40,915	31,679
固定資産	25,586	23,500
繰延資産		39
資産合計	66,501	55,219
負債の部		
流動負債	15,099	10,493
固定負債	9,474	10,607
負債合計	24,574	21,100
少数株主持分	6,351	15
資本の部		
資本金	3,384	3,384
資本準備金	5,560	5,560
連結剰余金	26,233	25,480
その他有価証券評価差額金	91	164
為替換算調整勘定	310	158
自己株式	5	0
資本合計	35,576	34,103
負債・少数株主持分・資本合計	66,501	55,219

キャッシュフロー(連結)

営業活動によるCFは、税金等調整前当期純利益の増加、棚卸資産の減少により、前期に比べ約25億円増加しました。投資活動に使用した資金は、当社加古川工場、国際試薬西神工場の増改築を実施しましたが、国際試薬の取得資金が前期に比べ減少したこと等により、前期比約70億円減少しました。財務活動によるCFは長期借入金の減少等により、前期に比べ約53億円減少しました。この結果、現金及び現金同等物は前期に比べ約18億円増加しました。

連結剰余金計算書

科目	(単位:百万円)	
	当期 平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで	前期 平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで
連結剰余金期首残高	25,480	24,650
連結剰余金減少高		
配当金	480	460
役員賞与	73	73
(うち監査役賞与)	(9)	(8)
当期純利益	1,308	1,363
連結剰余金期末残高	26,233	25,480

(注)記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

総資産(単独・連結)

総資産は前期に比べ連結で約113億円、単独で約10億円増加しております。主な要因は、国際試薬の株式17.5%(約26億円)を公開買付により取得したことにもない、同社が連結対象に加わったことによるものです。

キャッシュ・フロー計算書(連結)

科目	(単位:百万円)	
	当期 平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで	前期 平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,234	1,723
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,111	9,130
財務活動によるキャッシュ・フロー	568	4,739
現金及び現金同等物に係る換算差額	289	104
現金及び現金同等物の増減額	1,842	2,562
現金及び現金同等物の期首残高	7,338	9,901
現金及び現金同等物の期末残高	9,181	7,338

貸借対照表(単独)

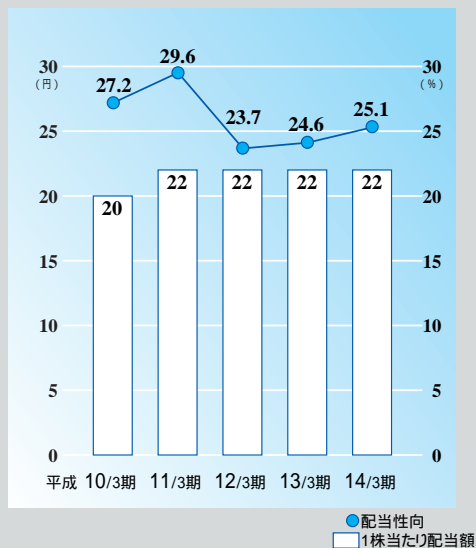
科目	(単位:百万円)	
	当期 平成14年3月31日現在	前期 平成13年3月31日現在
資産の部		
流動資産	25,408	27,485
固定資産	29,255	26,113
繰延資産		39
資産合計	54,663	53,638
負債の部		
流動負債	8,850	7,948
固定負債	8,675	10,079
負債合計	17,525	18,028
資本の部		
資本金	3,384	3,384
法定準備金	5,950	5,918
剰余金	27,710	26,463
其他有価証券評価差額金	91	156
自己株式	0	
資本合計	37,137	35,609
負債及び資本合計	54,663	53,638

利益処分(単独)

科目	(単位:百万円)	
	当期 平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで	前期 平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで
当期末処分利益	2,395	2,347
利益処分額	1,508	1,577
利益準備金		32
配当金	230 1株につき普通配当11円	250 1株につき普通配当12円
役員賞与	78	73
(うち監査役賞与)	(10)	(9)
別途積立金	1,200	1,200
次期繰越利益	886	790

(注)1.記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。
2.当期は1株につき11円の中間配当を実施いたしました。

配当性向 / 1株当たり配当額



配当政策

【利益配分の基本方針】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要政策の一つと位置づけており、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。

【当期の配当決定に当たっての考え方】

当期の利益配当金につきましては、上記の基本方針および当期の業績を勘案のうえ、1株につき22円(うち中間配当金11円)となります。

株式の状況

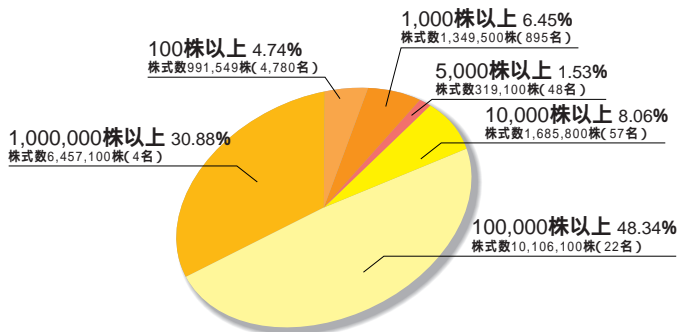
会社が発行する株式の総数

74,836,000株

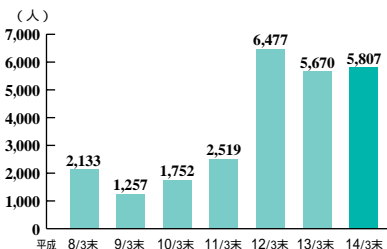
発行済株式総数

20,909,200株

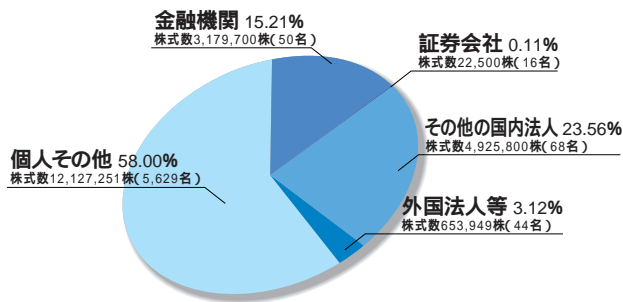
所有数別分布状況



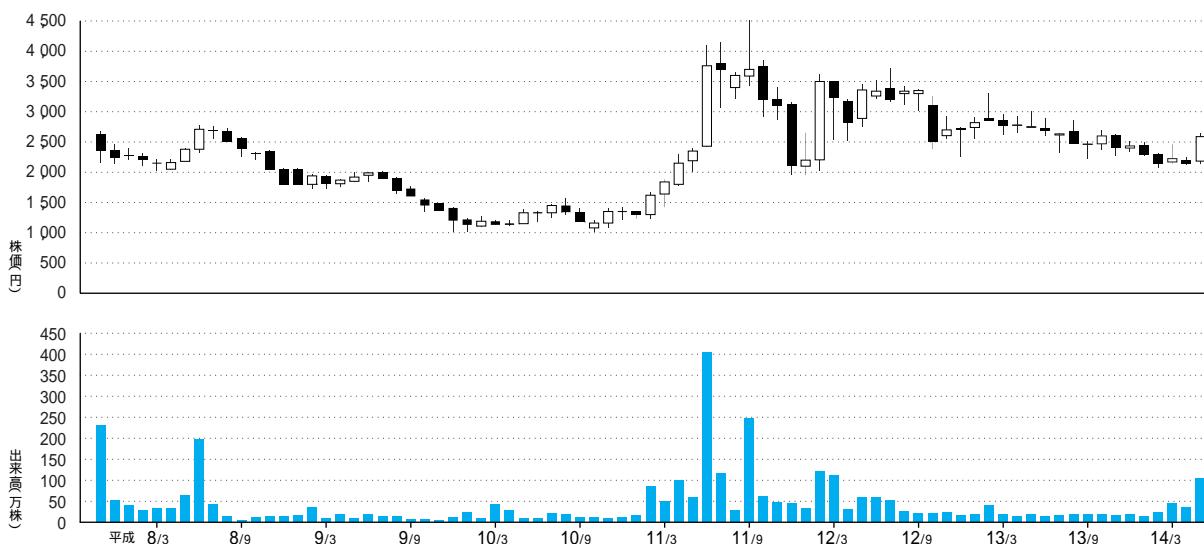
株主数の推移 (人)



所有者別分布状況



株価・出来高の推移



平成8/7までは大証株価、翌月以降は東証株価を使用

株主メモ

決算期日	3月31日	株式事務	
定時株主総会	6月	名義書換代理人	〒100-8212東京都千代田区永田町二丁目11番1号 三菱信託銀行株式会社
基準日		同事務取扱場所	〒100-8212東京都千代田区永田町二丁目11番1号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
定時株主総会	3月31日		(郵便物送付先、電話照会先) 〒171-8508東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
利益配当金	3月31日		三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03) 6391-1900(代表)
中間配当金	9月30日	同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
その他必要がある場合は、あらかじめ公告して 設定します。			
公告掲載新聞	日本経済新聞		
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 大阪証券取引所市場第一部	お知らせ	1.住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル 0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。 2.配当金を郵便貯金口座へお振込みすることができますようになりました。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。
証券コード	6869		
1単元の株式の数	100株		

平成13年10月1日施行の改正商法により従来の「1単位の株式の数100株」が「1単元の株式の数100株」となりました。

会社概要

商号	シスメックス株式会社 SYSTEMEX CORPORATION ('98年10月1日東亞医用電子株式会社から商号変更)		主な関係会社
設立年月日	昭和43年2月20日		国際試薬株式会社 メディカ株式会社 トーアメディカル株式会社 シスメックス物流株式会社 株式会社アール・エー・システムズ 株式会社日本食品エコロジー研究所
資本金	33億8490万円		SYSTEMEX CORPORATION OF AMERICA(アメリカ) SYSTEMEX REAGENTS AMERICA, INC.(アメリカ) SYSTEMEX INFOSYSTEMS AMERICA, INC.(アメリカ) SYSTEMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA.(ブラジル) SYSTEMEX EUROPE GMBH(ドイツ) SYSTEMEX DEUTSCHLAND GMBH(ドイツ) WELLTEC GMBH(ドイツ) SYSTEMEX UK LIMITED(イギリス) SYSTEMEX BELGIUM S.A.(ベルギー) SYSTEMEX MOLIS S.A.(ベルギー) SYSTEMEX FRANCE S.A.R.L.(フランス) SYSTEMEX MOLIS IT SERVICES SLOVAKIA, S.R.O.(スロバキア) 済南希森美康医用電子有限公司(中国) 希森美康香港有限公司(中国) 希森美康医用電子(上海)有限公司(中国) 希森美康電脳技術(上海)有限公司(中国)
従業員数	1,002名 上記の従業員数には関係会社への出向者67名および嘱託、パートタイマー216名は含んでおりません。		SYSTEMEX SAN TUNG CO., LTD.(台湾) SYSTEMEX SINGAPORE PTE LTD.(シンガポール) SYSTEMEX (MALAYSIA) SDN BHD(マレーシア) SYSTEMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD.(インド) SYSTEMEX (THAILAND) CO., LTD.(タイ) MED-ONE CO., LTD.(タイ) SYSTEMEX DELPHIC LIMITED(ニュージーランド) WHOOSH TECHNOLOGY PTY LIMITED(オーストラリア)
主な事業の内容	臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに 関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入		
主な事業所			
本社	〒651-0073神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 TEL.078-265-0500(代) FAX.078-265-0524		
テクノセンター	仙台支店 北関東支店	営業所 札幌、盛岡、長野、新潟、 千葉、横浜、静岡、金沢、 京都、神戸、高松、岡山、 鹿児島	
加古川工場	東京支店		
小野工場	名古屋支店 大阪支店 広島支店 福岡支店		

役員のご紹介

取締役社長 (代表取締役) ... 家次 恒	取締役 ... 日置 栄一	取締役 ... 山本 博	
専務取締役 ... 雪本 賢一	取締役 ... 中谷 正	取締役 ... 中島 幸男	常勤監査役 ... 明田 光弘
常務取締役 ... 岡田 徳弘	取締役 ... 林 正好	取締役 ... 岩崎 為雄	常勤監査役 ... 岩田 豊太郎
常務取締役 ... 和歌 光雄	取締役 ... 大東 重則	取締役 ... 田村 幸嗣	監査役 ... 石田 義暁

データは全て平成14年3月31日現在のものです。ただし株価、出来高の推移は平成14年5月31日現在のデータです。

CORPORATE PROFILE

シスメックスグループの新しい仲間、
国際試薬をご紹介します。

この度、シスメックスグループの一員となった
国際試薬株式会社をご紹介します。

試薬の開発・生産に特化した、専門性の高い
事業展開を図る。

シスメックスは機器を中心に成長した企業で
あり、国際試薬は試薬に強みをもつ会社です。
今回の一体化により、シスメックスの試薬開発
機能を国際試薬へ移管することで、さらに充実
した試薬開発体制が実現します。今後、国際試
薬は試薬の開発および生産を専門に行い、シ
スメックスグループの一員として新たなスタートを
迎えます。



西神工場

神戸市西区の西神インダストリアルパークにある西神工場は、品質管理および品質保証の国際規格であるISO9001の認証を取得し、医薬品の製造・品質管理基準であるGMPに適合。免疫などの生物材料を使用した試薬を中心に、1000品目を超える製品を生産しています。



研究開発センター

国際試薬の研究開発センターは神戸市内に位置し、生化学、凝固、免疫などの試薬開発を行います。また、各分野の第一線で活躍する研究者を招いての講演会などを開催し、医療現場の最新情報を発信していきます。

国際試薬株式会社 | 会社概要

設立年月日 1969年12月16日
資本金 26億5,000万円
従業員数 318名(2002年3月31日現在)

